【財団に聞きたいこと・確認したいこと】

スタッフ・役員	スタッフの方は職場環境に何らかの問題を感じていませんか？	ありがとうございます。再出発に向けて元気に頑張っています。もちろん忙しいですが、スタッフ全員で協力しながら、仕事を進めています。
	事務局のスタッフさんは元気でしょうか？	
	スタッフの方お忙しい？	
	助成事業がかぶった場合の職員の分担は？	今は人員が限られていることもあり、どうしても事業が重なることが多いです。そういう場合は、主担当が中心となって事務局全員で協力して事業を進めています。
	団体の支援ができるスタッフの育成はどのように？	時間はかかるかもしれませんが、団体のみなさんと一緒に、あるいは団体のみなさんから学ばせていただくこと、さまざまな研修を受けること、スタッフ内でスキルやノウハウを共有することを心がけます。
	新体制の役員と事務局スタッフのコミュニケーションは密にとれていますか？	常勤の常務理事を配置し、事務局スタッフと常にコミュニケーションをとっています。常務理事以上からなる常務理事会を毎月行っているほか、問題点、課題等がある場合は、代表理事をはじめ理事に即座にメールおよび電話で連絡し、情報共有を図っています
	理事と職員とのコミュニケーションはどう図っていくのか？	
	事務局内の現状を役員の方はしっかり把握されていますか？	
	役員はすべて替わっているのか？	一部、再任の役員がいます。 役員１２名中、４名が新任、８名が再任です。
	理事決定のプロセスは？	5 月に理事及び評議員からご推薦をいただいた NPO 法人、一般社団法人、市民活動に経験の深い方々と意見交換をさせていただき、率直な意見をお聴きし、あいちコミュニティ財団に応援していただける方々に就任していただきました。
	名前だけの役員の方は何名いますか？	名前だけの役員はいません。会議に出席できないことはありますが、その場合も、メールなどで情報を共有し、ご意見をいただいています。
	対話集会と理事決定の日程調整はどのように？	理事及び事務局スタッフのメンバーが新しくなり、4 月初めに、毎年 6 月に開催されている『イロリバ』に代わり

		年次報告会の開催を計画いたしました。財団を応援していただいている皆様に集まっていただき、日本ファンドレイジング協会　鵜尾代表理事のご講演と、財団の再出発にあたり『財団が守ること』を説明させていただき、集まっていただいた皆様に財団への忌憚のないご意見をいただく機会を設けさせていただきました。
ノウハウの引き継ぎ	職員が大きく変わってしまったが、ノウハウ、情報の引き継ぎはどのように？	実施内容・時期などの情報・ノウハウ引継ぎは全事業について行いました。一方で、2017 年度に中止になった事業があるなど、特に経験に基づく部分については継承できていないものもあり、全体としては不十分な状況であると認識しております。 皆様のご援助をいただきながら、今後の事業に必要な情報の復元を図っていく予定です。
	ノウハウの連続性への対策は？	
賛助会員	賛助会員数は増？減？	賛助会員数は、2017 年度実績の 162 名から 2018 年度は 6 月末実績 46 名に減少していますが、運営体制の立て直し優先のため寄付継続の呼びかけが遅れたことが大きく、今後ご支援を呼びかけてまいりたく思います。
支援先	支援先集めのやり方は？	愛知県内の団体や中間支援組織にチラシを送付し、説明会を実施しています。趣旨をしっかりとお伝えした上で応募いただけるよう、これからも募集方法を改善していく予定です。
	これまでの助成団体からの連絡は？	今までの事業に関するご意見や今後への提案など様々な声をいただいています。
ボランティア等	ボランティア集めのやり方は？	これまでは、活動の趣旨などに合わせ、団体や個人にお声掛けをさせていただいていましたが、今後どのようにボランティアを募集するかについては検討します。
	審査員やフェローとの関係性はどうなる？	これまでどおりご支援いただきたいと考えており、どのような形で関わっていただけるか、みなさまのご意見を伺う場をつくりたいと思っています。
	プロボノ（フェロー）は今後どう関わっていけばよいか？	

データ等	せっかくのデータベースをどうするか？	データベースについては、他財団の運用方法を参考にしながら、試行錯誤を重ねてよりよい活用方法を検討しています。
	セールスフォースは使っていますか？	セールスフォースは毎日の業務で使用しています。
事業	ＳＴＥＰテラハ→ジャンプの目標設定はあるの？	目標設定については、団体と話し合いながら考えていきます。
	ミライ☆チャレンジＰＪ　2017 年度の事業数は？手ごたえは？	2017 年度は 4 団体を採択し、事業を行ってきました。このうち 2 団体が 2017 年度をもって卒業しました。今年度も継続している 2 団体は、先日の研修で 2017 年度の振り返りを行い、ともに 2017 年度当初に想定していたよりも高い成果を出していることが分かりました。今年度は事業の自立に向けて進めていきます。
	財団は各プログラムに対し、どのような支援をしたのか？	事業報告書（https://goo.gl/97ET5b）を作成しましたので、ご覧ください。
今後について	予算の増減の見通しは？	2018 年度当初予算から状況が変わったところもありますので、再検討の上 7 月末にご報告いたします。 なお、2018 年度の当初予算では、費用総額 24 百万円であり、前年度の 41 百万円から 17 百万円の減少を計画しておりました。
	2018 年度の事業計画及びセオリーオブチェンジの継続性は？	みなさまのご意見を伺いながら、地域や社会の状況などに合わせ、柔軟に考えていきたいと思っていますが、現段階では、できるだけシンプルにわかりやすい形で枠組みを考えました。それぞれの事業の詳細な実施方法については、現在検討しているところです。
	今後の目指すところは？今後の活動予定は？	
	今年度の協働事業は何をどのように進めていくのか？	
	新体制となり、今後改善した結果をどのように発信していく予定か	ウェブサイトでみなさまにご報告します。
	フカボリ、ミエルカ、今後復活させますか？	既存事業の趣旨等を踏襲しつつ、寄付金関連の事業は 1 つにまとめる予定です。テーマを選んでいただく「あいち・つながる基金（仮称）」と、特定の寄付者によるテーマを限定した冠基金の 2 種類で進めたいと考えています。
他団体等と	他の中間支援団体との連携は？協働	同じ目的を持つ中間支援組織として、

の連携	の方針は？	よい関係を築きながら、協力できるところは協力していきたいと考えています。
	中部地域創造ファンドとの関係性は？	
	全国コミュニティ財団とのコミュニケーションは？	総会や研修に参加し、情報交換を行っています。他地域の状況や取り組みなど参考になることがとても多く、今後も積極的にコミュニケーションを取っていきたいと考えています。
	いろいろな団体と協働していますが、行政との協働は民間と比べるとどうですか？	行政との協働は、地域の方たちに事業を広く知ってもらうことができるので、とてもありがたいです。